

小山ボーイズニュース

NO.15 発行責任者 小山ボーイズ球団 栃木県小山市西城南7-6-9 飯田研二 Tel&fax 0285(27)4005

感動の1年を振り返り、来る年の飛躍を誓う

活躍を振り返る 今年の十大ニュース

年の暮れになると、何故か一年を振り返りたくくなります。もう、終わってしまうのかと少々寂しくなるからですかね。縁側でいそいそと正月支度をする時など、日中が短いので昼寝などしていられません。そんな気ぜわしいのも年の暮れ。今年も感動の一年でした。選手たちの躍動する瞬間の顔は、言葉に表せないほどの魅力を感じます。

◎今年の十大ニュース

①リレーマラソンで2時間3分台

ぶっちぎりでした。一人が四百メートルを走ってつないで、42・195km。練習の成果は、バテない走りに出ています。

②伊豆大島合宿二泊三日

小蔦コーチの故郷、伊豆大島での強化合宿、何といっても船泊の経験は、いつまでも忘れることはないでしょう。

③関東ボーイズリーグベスト8

前年度準優勝のこの大会、先輩たちに近づきたいと頑張りました。力を付けた証拠を見せつけてくれました。惜敗のベスト8でした。

④夏の全国選手権、二年連続出場

これは感動しました。意地をみせた予選の大会、勝ちたいという気持ちが全員にありました。選手も役員も父兄も一つになった今年一番の瞬間です。「勝ちたい」という気持ちを出して、

勝つことに意義がある。努力を形とした選手たちの成長が嬉しいですね。

⑤関東大会三年連続出場

全国予選の勢いのまま、圧倒した大会でした。弱い弱いと言われたチームが、負ける気がしない戦いをした。自信というものは大きいです。

⑥東日本大会優勝

これは初のG1奪取ですから、名誉なことです。投・攻・守のバランスがよかったこと、声で圧倒していたこと。勝つ時は、全てよく見えます。

⑦群馬TV杯・上毛新聞杯ベスト4

両大会とも、群馬県での他リーグ交流戦です。優勝こそありませんが、最終日まで残ったことは、チームの総合力を感じます。

⑧真中満杯ベスト4

栃木県内で初のローカル大会。全国大会一週間前ということもあり、1・2年生が出場し、見事にベスト4です。チームの力を感じて、嬉しくなる大会でした。選手たちは悔しそうでした。

⑨千葉県支部一年生大会優勝

いつもスタンドで応援している一年生達が、日頃のうっぶんを晴らしに遠征して、見事優勝。「俺達も結構やるじゃない」と思っているでしょうね。

⑩横浜瀬谷ホームステイ

瀬谷ボーイズの選手宅にお世話になりました。初めての家に訪問して、食事、入浴、朝食を共にして、身近のことを全て自分でやる。旅館やホテルに外泊するよりも数倍勉強になりました。

突然の守乱！春の全国逃す

第三九回春季全国大会支部予選

於・佐野市宮球場

○一回戦

小山ボーイズ 9対1 栃木ボーイズ

○準決勝

佐野ボーイズ 投手 齋藤・石島

003115 捕手 舟橋・坂本

111014

小山ボーイズ 三塁打 内田

2時間時間切れのため、5回で試合成立となった。先制して試合展開は悪くない内容であったが、3回のバントヒットを皮切りに守備乱れて失点する。追い上げるも、守りのリズム戻せず。

優勝栃木県中学3年生野球大会

ボーイズ・シニアの選手と中学軟式の選手がシーズン終了後に各地で集う練習会。小山でも8年目を迎えた練習会は、9月から翌年3月までの短い期間だが、高校で野球をやりたいという子には入団の制限はない。第二回大会。

○予選 古河市三和球場

小山 13 対 3 上河内

小山 1 対 1 芳賀

○準決勝

小山 3 対 1 コットン

○決勝

小山ボーイズ練習会 投手 星

0112105 捕手 松枝

0100001 (三塁打)

佐野硬式野球練習会 松枝

野球の魅力

・・・ミスは当然なんだという素晴らしさ・・・

野球は何が面白いですかと聞かれば、考えるスポーツだから面白いと答えます。

試合結果から、いろいろと問題を分析して話が出来るようになる、勝っても負けても話は尽きません。

いつの間にやらストーリーが出来上がり、予想屋のごとく解説がつく。だから野球は面白い。

- ①四死球を出す点につながる。
- ②波に乗った選手は止められない。
- ③8番打者が出塁すると点につながる。

などの名言が野球には数多くある。これらは可能性があるというだけで、必ずそうなるとは限らない。

強いて言えば、そうならないように注意しなさいという話ですね。しかし、勝負となると心配をしすぎるあまり、小さなピンチが肥大化して大量失点ということにもなりかねない。錯覚や迷いが試合の流れを変えてしまうようです。

心配もほどほどにすべきですが、本番はそうはいかない。分析好きな方々だけでなく小さな問題ではないらしい。何の為に毎日細かい練習までやっているのか。想定されるプレーを繰り返しやっているのか。試合に出るであろう想定問題を完璧にやっているのに・・ということ、話はなかなか終わらない。

試合では、練習でやれたことを、そのままのびのびプレーすればそれでいいのです。良い結果・悪い結果をいろいろ考えると普段のプレーができません。あんなことするから、こんな結果が出たという事になって、夕刻に始まった反省会が夜中まで及びます。

競馬でも、本命馬が必ずくるとは限らない。早朝の追いきりから、厩舎情報まで集めて、専門家が予想する。数あるデータを持ち出して解説して、スポーツ新聞に自信満々に発表する。それでも来ない本命馬ですから・・。

でも、こういう話には賛否両論が必ず出てくる。「そのとおり！当たり前だ。何がなんでも四球が点につながる」と言い張る。「そんな事ない。3塁まで行かれたって点を取るのは大変さ」という具合だ。熊さん八さんの話になってくるんですね。

もちろん、波に乗ってる選手とピンチの時は勝負したくありませんし、四球はピンチを招きますし、8番打者を無死で出してごらん下さい、ホントらしいことになります。

そこで慌ててはいけません。落ち着いて試合の流れを見て、我慢とチャンスを掴む気合が必要です。

先日、書店で買った「寛容力」という本に素晴らしいことが載っていました。

今年の日本チャンピオンは西武ライオンズです。渡辺監督は選手を叱らないそうです。何故かという理由で「萎縮するから」という理由です。プロ野球選手が萎縮するんですから、今の若い人は気持ちが弱いでは片づけられません。プロ野球選手と言えば、猛練習に耐えてきた成功者ですから。

小山ボーイズニュースにも、「ミスって、何のこと」というコラムを書いたことがあります。ミスは、本人が一番よく分かっているものです。ミスをしたらどうなるか！

慣れてない人は大変ですよ。頭の中は真っ白で目は飛んでいます。慣れてる人でも、場面によっては随分と落ち着かない。

渡辺監督は、ここで叱ると自分も相手も気分が良くない。本人は、何とか挽回しなくてはと思っている。だから叱らないそうです。さらに、デーブ大久保さんは、乗せ上手で選手をどんどん乗せていきます。選手の気持ちを掴んで、叱り方・接し方が巧いのでしょうか。でも全然叱らないということではないそうです。

「ミスをした」したらしたでいいじゃないですか。ミスをしてしまった訳ですから。次に何をしたらいいかが問題です。そのための猛練習です。守備の場合は1個の塁を明け渡すだけにすればいい。2個やるといけません。慌てずに動けるように練習しておくことです。だから、真剣に練習しないと試合で慌てることになるのです。

野球には同じ場面がありません。似たような場面はあっても全て違うものです。動くボールでプレーするから、何が怒るか分かりません。あつと言う間にチャンスもピンチもやってきます。

野球は考えるスポーツです。試合のいろいろな場面を覚えておくこと。場面場面で起きる可能性を探ること。この場面で相手は何を考えているのかを考えること。自分の力と相手の力を比較し、場面に併せて考えることなど忙しくて大変。ミスは当然です。

まさに奥が深く多くの人から愛されている野球には、当然のごとく多くの名言が、今後も生まれてくるでしょう。「ミスは当然出るもの」と頭に置くことが揺ぎ無い野球の基本である。敵味方関係なくミスをどう考えるかが勝敗を決することになる。

BASEBALL
PRO SHOP
石川スポーツ
TEL0282-24-3161
専門スタッフが心から
アドバイスをします

LPガスHOTライン
本社 (小山市出井)
0285-30-1011
下野支店
0285-53-7751
(株)トチネン